



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

第2484号 週報

5月18日.2022

高知東ロータリークラブ

本日 5月18日(水)12:30 ザクラウンパレス新阪急高知
会員スピーチ
「山脇信徳絵画コレクター50年」
佐野 博三 会員

次週 5月25日(水)12:30 ザクラウンパレス新阪急高知
ゲストスピーチ
「『模型を愛して半世紀』開業58周年」
(南)ヨシオカ 取締役会長 吉岡 嗣貴 氏

第2530回 例会報告／令和4年4月27日 天候 曇

◇ロータリーソング

「奉仕の理想」

◇会長 挨拶



皆さま、こんにちは。
今の歌の中にも「永遠の平和」という言葉がありましたけれども、本当にいつになったら平和な社会が訪れるのかと、寂しい思いがいたします。私たちにできることをやっていきたいと思えます。

遅くなりましたが、今月は「母子の健康」月間です。どうしても、母子の健康というと乳幼児を連想してしましますが、今月のロータリーの友に「生理の貧困」という記事が出ているのを読みました。確かに生理用品は女性だけに、毎月必要不可欠なものでお金もかかります。広島東南RCでは、広島大学へ生理用品を寄贈したそうです。生理用品を無償配布する自治体や学校、企業も増えているようですが、まだまだ行き渡っていないようです。近年、奨学金で大学に行っている学生も増えていますので、こういった支援は大変ありがたいことだと思います。

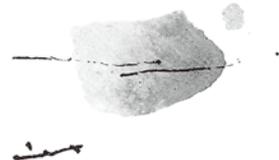
また、オーストラリア、ドイツ、ナイジェリア、スイスのロータリー会員は、ナイジェリアで複数の団体と協力して、望まない出産の件数を減らし、母子の死亡率を低下させるための複数年にわたる大規模なプロジェクトを立ち上げ、財団のグローバル補助金事業と

なり、ナイジェリアの全36州で医師、看護師、助産師の養成を行っているそうです。

望まない妊娠に関しては、高知県でも昨年から講習を受けた薬局に県の要請で、緊急避妊薬を置くことになりました。これは性暴力被害などの深刻な状況に遭ったときに、72時間以内に服用すると70～80%の避妊効果があるというもので、医師の処方箋が必要です。ほとんど需要はありませんので、ボランティア的要素が大きいのですが、やっとそういうところにも目が向くようになったという思いです。

本年度のシェカール・メータRI会長の方針の中で「女子は不利な立場に置かれることが多く、ロータリーは全ての子どもに奉仕しますが、特に女子に焦点を当てます」と述べられています。せっかく女性会員が入っているのですから、男性会員が気が付かない女性特有の問題にも目を向け、男性会員に発信していけたらと思います。

本日のゲストスピーカーは、入交グループ本社常任監査役の丸岡さんです。後ほどよろしくお願いたします。



◇幹事報告

- 来週は、休日のため休会です。
- 本日例会終了後、役員会を行います。お送りした次第に、時間を5時45分からと書いて

いますが、例会終了後の間違いです。

- ガバナー事務所は4月29日から5月8日まで休業、市内クラブ事務局はカレンダーどおりです。

◇ゲストスピーチ

入交グループ本社株式会社 常任監査役 丸岡 昭仁 氏

「心技体。 居合道日本一の体験談」



居合は、戦国時代の約400年前、信長・秀吉の時代、出羽の国の林崎甚助重信という武芸者が、父親の敵討ちのため編み出した剣術の技です。刀が鞘に入った状態から抜き付けの一刀で敵を倒す一撃必殺の武術ですが、熱心な修行者として、幕末の大老・井伊直弼、土佐藩主・山内容堂、福沢諭吉などが有名なことから、江戸後期には、艱難に立ち向かう精神修養として修行されていた面もあると思います。

居合は日本刀を振る武道ですが、稽古は仮想敵に対する形稽古です。通常は一人で行うので自分の体力に合わせ、自分のペースでできることから、中学生から80歳代まで、老若男女が一緒に稽古できる武道です。全日本剣道連盟登録の会員は9万5千人。ラグビー人口とほぼ同じです。最近では女性剣士が多く3割くらいです。

私を感じる居合道の魅力の一つは、「瞬間と空間を切り取る」感覚を感じられることです。刀が切る瞬間の速度は、専門家の解析で1000分の1秒と言われています。この1000分の1秒に生死の境があります。また、空間も、刀が自分



の正中線を通る瞬間、自分の前の空気を上下、あるいは左右に切り開く感覚が得られます。禅でいう「いま、ここ、われ」の瞬間を体感する感覚は、俳句、お茶など日本古来の生命感とも共通しています。

実は、現代居合には、土佐藩が大きな役割を果たしています。明治維新で武士の世が終わり、剣術や居合術の流派はほとんどが消滅しました。そのなかで、山内容堂の近習を務めていた英信流第17代大江正路は、土佐藩の「無双直伝英信流」居合を体系的に構成し直し、明治時代、全国に広めました。その結果、いま全国の約8割の居合道家がこの土佐の英信流系統に属しています。ですから、高知県は「現代居合のルーツ、もしくは聖地」と呼ばれています。そして、その口伝、直伝を受け継ぐ先生が多く残っている貴重な土地柄です。

私の原動力は2人の師匠との出会いです。最初の師匠、東京の佐川博男先生は、現代居合の二大流派である夢想神伝流の第一人者。高知での師匠、野田亨先生は、もう一方・土佐の無双直伝英信流の第一人者でした。私は、師匠に出会い、「人間ってこんなに素晴らしいになれるのか」と、その技だけでなく、人格、人間力、生き方、簡素な生活に心から感動を受けました。先生に近づきたい、ああいう人間になりたい、その一念で私は居合道に取り組んでおります。

私は、2年半前の令和元年10月19日、高知県民体育館で開催された「第54回全日本居合

道大会」七段の部、ならびに都道府県対抗団体の部で優勝しました。全日本居合道大会は、47都道府県が、五段、六段、七段と三つの高段位から1名ずつ代表選手を出し、段別に47名の選手によるトーナメントで行われます。試合は、2人同時に演武し、3人の審判それぞれによる旗判定で勝敗を決定します。私は全国規模の地方大会ではときどき優勝もしていましたが、一番格上のこの全日本大会だけは10回出場してベスト8止まりと縁がありませんでした。本気で優勝を目指すには日常を大きく変えなければいけませんでした。生活も仕事も捨てる勇氣はありませんでした。平成28年頃、全日本剣道連盟から、3年後に高知県で全日本大会をと内示があったとき、私は、このチャンスに居合道人生をかけようと覚悟を決めました。

武道やスポーツで成果を上げるには、心・技・体が高度に兼ね備わることが必要です。ジャンボ尾崎は、心・技・体は、体・技・心の順番だと言っていますが、その通りだと思います。強い体という基礎があって、高度で繊細な技の再現性が高まります。

まず、「体」は、その競技に必要な、筋肉と神経の一本一本まで丁寧に強くする訓練が必要で、基礎練習によって鍛え上げるしかありません。野球なら素振り、キャッチボール、ゴルフなら打ち込み、相撲であれば四股、テッポウ、すり足。ただ、ほとんどの人はこれを黙々と何年間も続けることができません。私の師匠は「居合とは愚鈍なもの。バカじゃないとできない」と言っていたのですが、地味で成果を感じにくい基礎稽古を延々とやり続けられるかどうかが優れた選手になれるかどうかの一つの分かれ目です。

強化稽古が始まり、優勝だけを目指す稽古に耐える体幹と強い筋がつくまで、体づくりの段階に最初の1年を要しました。体が備わってきてようやく、技術を積み上げられる感覚が出てきました。

「技」は優秀な指導者について、とにかく反復稽古するしかありません。幸い高知県には、英信流の伝統から最高段位の八段が4人いました。約3年間、週5日～6日、毎日2時間、つきっきりでご指導いただきました。大会までの3年間、自分以上のハイレベルの

稽古を休まず続けてきた選手は、全国にいないという強い自信が生まれるまでやりました。しかし、これは、自分の生活を犠牲にして、休みなく指導してくれた先生方がいなかったらできませんでした。感謝しきれません。

最後が「心」です。これが一番つかみどころがなく、難しい課題です。

大学を卒業して高知に戻ってきたとき師匠から言われました。「技は道場で稽古できる。しかし、心の稽古は道場だけでは無理だ。心は仕事で鍛えよ。仕事で範士になれ」と指導されました。それから30数年間、私は居合道の修行と思い、仕事に全身全霊を傾けました。銀行の仕事は、昔は残業やお付き合いも多く、休日はゴルフなどもあり、20年以上道場稽古には恥ずかしいほどしか行けませんでした。大学時代のライバルは、7、8年前から全国の指導者の仲間入りをしています。私は仕事ばかりで「このまま終わるのか」と情けないやら、手の届かない思いをしていました。30年間、仕事で心の鍛錬をしてきたその集大成に、どういう「心」で臨んでいくのか、3年間、葛藤と決断を繰り返しました。

最初に、障害になるものを思い切って捨てて背水の陣を敷くことからスタートしました。まず、仕事のキャリアを捨てました。突き抜けるためには週5、6日、毎日2時間の稽古が必要で、それをやり抜く稽古時間の確保が最優先でした。当時、銀行本部の営業統括部長から大阪支店長と仕事の第一線にいましたが、ちょうど母親の介護が始まったこともあり、この機に、転勤がなく、定時に終われるグループ会社に出向させてもらいました。

二つ目に、こだわりとプライドを捨てました。「先生」と呼ばれる地位になると、当然、自負とプライドがあります。しかし、強化稽古では20歳代の後輩にも膝を折って、頭を下げて、アドバイスを求め、他人の評価をもとに技を組み立て直していきました。

三つ目に、お金も少し捨てました。姿や道具は、心や工夫を映し出します。刀は振った時にいい音が鳴るように研ぎなおしました。刀につける下げ緒という組み紐は、栃木県の伝統工芸品で特注し染色・手編みしてもらい

ました。胴着は寸分たがわずフィットするよう採寸し特注しました。最高の舞台にふさわしい道具仕立てをしました。

捨てた次は、心の稽古です。

古い話になりますが、10数年前、プロ野球のストッパー佐々木大魔神のドキュメンタリー番組がありました。佐々木は、登板直前、ブルペンでの集中力と闘争心の高まり具合で打ち取れるかどうかが決まる。マウンドに上がったときにはもう勝負はほとんど終わっている。という内容でした。師匠は「あれが居合だ」と言いました。みんな刀を抜くのが居合と思っているが違う。それ以前の心の備えが居合だと教わりました。

剣の教えに「剣は手に従い、手は心に従う。心は法に従い、法は天に従う」という言葉があります。魂を動かすのは天命で、技を動かすのは心です。大会当日は、いろんなことが目に入り、聞こえてきます。その状況にあっても心が動かされないよう、試合1ヵ月前からは、技の稽古から「動かない心」をつくる稽古に切り替えました。頭は座禅を組んだまま、体は技を抜くような稽古方法です。そして毎日、決勝戦までのイメージトレーニングを繰り返しました。

また、ある宗教家から教えてもらい、試合をする自分を天井から見る稽古もやりました。訓練すると、身体と意識が分離し、上空から自分の姿が見えるようになります。そうすると、「やるぞ」という力みが少しずつ取れていきました。天井ができたなら、その町の上から、高知市、高知県、日本と自分の目をどんどん上げていきました。

考えられるあらゆる稽古をしました。最後は神頼みです。菩提寺にお参りし、お賽銭はたっぷり供えました。師匠のお墓にも「力をお貸してください」と頼みに行きました。

大会当日、朝起きたとき、地元開催で負けたら、今までとこれからを失う究極の一日が始まったという思いが胸に切迫してきました。ちょうど、日本開催のラグビーワールドカップ、決勝トーナメントを賭けた激闘の最中でした。同じ地元開催の苦しい練習、勝たないといけないプレッシャーが完全にシンクロしていました。

当日、会場には400人以上の人がいて、約



140試合が行われましたが、ほとんど何も、誰のことも見ませんでした。居合の試合は演武なので、審判の心をどれだけ自分に引き付けるかが勝負です。私は、技よりも自分の気が、県民体育館のどこまで支配できるかに集中していました。自分の半径3メートルか、10メートルか。審判を、私の気と呼吸に引き込む戦い方です。試合場に踏み入れる一步目に全身全霊を注ぎました。二歩目以降はほとんど覚えていません。

結果は、1回戦から決勝までの6試合全て3-0のストレート勝ちでの完全優勝でした。決勝戦が終わった時、不思議なことに、感激とか、うれしいとか感情はまったく起こりませんでした。ただ「終わった」という何もない感覚だけでした。

後日、地元の先生は、会場入りしてからの自分を「鬼気迫って火が出よった」と言いました。審判の先生の一人は、専門誌に「七段の地元選手は精神面で他の選手と違って感じるように感じた」と書いてくれました。

最後に少し、居合道の本質の話をしてします。

居合道がほかの武道と違うところは、日本刀を帯びて「武士道」を体現するところです。日本刀には、殺人剣と活人剣の働きがあります。人を殺傷する武器である反面、それ以上に刀は自分を厳しく律する道徳でもあります。その日本刀を携える「武士道」とは、主君のために軽々と命を捨てる覚悟、命より名誉や仁・義・忠・孝を大事にする覚悟を日々鍛錬する道です。

私は師匠から最初に、「居合とは何か。それは覚悟を練るもの」と教わりました。若い時から、もし師匠に「死ぬ」と言われたら死なないといけないなという意識で師匠につい

ていました。また、ある大家は「相打ちで死ぬれば武道家として見事。不名誉な犬死だけしなければよい」と、命を惜しむことを戒めていました。居合道の普段の稽古は「仮想敵をいかに上手に斬るか」であり、ほとんどの人はこれが「居合」と思っています。しかし、真剣を持った実戦でものをいうのは、技術よりも気魄、そして身を捨てる覚悟です。

私はここ数年、試合や昇段審査という「浮世の技」に没頭していましたが、「自身の覚

悟を練る」という居合道の原点にもう一度返らないといけないと思い直しています。私にとって本日の卓話は、本質を考え直す、いい契機となりました。この機会をあたえていただいたことに感謝しています。

本日は、「心の働き」という難しい問題で、限られた時間内にうまくお話できませんでしたが、ご清聴いただきありがとうございます。



Rotary International District 2670 2021~2022 Governor Office

2022年4月吉日

国際ロータリー第2670地区
ロータリークラブ会長、幹事様

国際ロータリー第2670地区
ガバナー 東 邦彦
地区代表幹事 大塚 和助

【香川】地区事務所、【徳島】地区事務所 名称変更について

2020-2021年度より、第2670地区の事務所を地区ガバナー事務所(本部)、【香川】地区事務所(ロータリー財団委員会・国際奉仕委員会)、【徳島】地区事務所(米山記念奨学委員会・青少年奉仕委員会)の3箇所に分けて運営しています。これはあくまで地区運営上の事務作業がより効率的に行える事を目的としています。地区ガバナー事務所は、ガバナー輩出県で1年毎に変わりますが、【香川】地区事務所と【徳島】地区事務所は固定となっています。

2022-2023年度の地区ガバナー事務所は香川県高松市に開設されますが、本部となる「地区ガバナー事務所」と分室である【香川地区事務所】の2箇所の事務所ができる事となり、会員より混同して間違うというご指摘を受けました。2023-2024年度は、徳島県よりガバナーが輩出されますので、同様の混乱が起こる事が予想されます。

つきましては、2022-2023年度(八田 光ガバナー)より、【香川】地区事務所と【徳島】地区事務所の名称を変更させていただく事となりましたのでよろしくお願い申し上げます。

(旧)	(新)
【香川】地区事務所	→ ガバナー事務所【香川分室】 地区ロータリー財団委員会・地区国際奉仕委員会
【徳島】地区事務所	→ ガバナー事務所【徳島分室】 地区ロータリー米山記念奨学委員会・地区青少年奉仕委員会

尚、本部となる「地区ガバナー事務所」はこれまで通りですのでよろしくお願い致します。

2022-2023年度 ガバナー事務所
〒761-8071 香川県高松市伏石町2034-1 TEL 087-802-8045 FAX 087-802-8046
E-mail info@rid2670gov22-23.jp URL https://www.rid2670gov22-23.jp

ガバナー事務所【香川分室】
〒760-0008 香川県高松市中野町20-4 栗林コーポ1F TEL 087-873-2225 FAX 087-873-2211
E-mail trf-office@rid2670.com (ロータリー財団委員会)
yep-office@rid2670.com (国際奉仕委員会)

ガバナー事務所【徳島分室】
〒770-0021 徳島県徳島市佐古一番町11-4 TEL 088-655-2670 FAX 088-655-2672
E-mail office@rid2670gov.net

■高知東RC当面の日程

- 5月25日(水) 役員会
- 6月1日(水) 定例理事会
- 6月8日(水) ロータリー休日
- 6月15日(水) 委員会活動実績報告
- 6月22日(水) 委員会活動実績報告
理事エレクト会 (例会終了後)
- 6月29日(水) 最終夜間例会
(ザ クラウンパレス)

■例会変更のお知らせ

- 高知西RC 5月20日(金) ロータリー休日
- 高知北RC 5月23日(月) ロータリー休日
- 高知南RC 5月26日(木) 職場例会
- 高知南RC 6月9日(木) 日時計例会
- 高知ロイヤルRC
6月14日(火) 職場例会
- 高知南RC 6月16日(木) ロータリー休日
- 高知西RC 6月17日(金) 最終夜間例会
- 高知北RC 6月20日(月) 年度末家族合同夜間例会
- 高知ロイヤルRC
6月21日(火) 最終夜間例会
- 高知中央RC 6月23日(木) 夜間例会
- 高知北RC 6月27日(月) ロータリー休日
- 高知RC 6月28日(火) あじさい夜間例会
- 高知ロイヤルRC
6月28日(火) ロータリー休日
- 高知南RC 6月30日(木) 最終夜間例会
- 高知中央RC 6月30日(木) ロータリー休日



- ・中平真理子 吉永さん、鬼田さん、先日はありがとうございました。丸岡さん、卓話ありがとうございました。
- ・西内俊介 今日は私の誕生日です。嬉しくありませんが、夜、家内と食事をしてきま

す。また、丸岡さん、今日のゲストスピーチありがとうございました。幹事もあと2ヵ月です。頑張ります。

- ・五百蔵誠一 丸岡さん、卓話ありがとうございました。
 - ・吉永光男 鬼田さん、土佐のあかうし、ありがとうございました。「うまかった」
- ◇遅刻・早退 1件

● ニコニコ箱 ●

	ニコニコ	チビニコ	合計
先週まで	1,053,000円	11,275円	1,064,275円
4月27日	7,500円	500円	8,000円
今期の累計	1,060,500円	11,775円	1,072,275円

● 出席率報告 ●

	総数	出席	欠席	マイクアップ	HC出席率	出席率
4月27日	⁻⁶ 52	32	8	6	61.54%	82.61%
4月13日	⁻⁴ 51	40	0	7	76.47%	100%

- 会長／中平真理子 ●幹事／西内俊介 ●雑誌会報委員／佐野博三・西村美香
- 例会日／毎週水曜日12:30PM～1:30PM ●例会場／ザ クラウンパレス新阪急高知 (088)873-1111
- 事務所／高知新聞放送会館6階 〒780-8572 高知市本町3-2-15 直通 (088)824-8660
- ホームページアドレス(PC・携帯共通) <http://www.kochi-east-rc.com>
- メールアドレス 事務局／hcrc@coffee.ocn.ne.jp 広報 I T 委員会／info@kochi-east-rc.com